

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870501224		
法人名	社会福祉法人 光朔会		
事業所名	グループホーム オリンピア兵庫		
所在地	兵庫県神戸市兵庫区小松通5丁目1-14		
自己評価作成日	2020年2月1日	評価結果市町村受理日	令和2年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和2年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症になっても、誇りを持ってこれまでどおりの暮らしを安心して続けていただくお手伝い」を理念に掲げ、利用者ひとりひとりの「その人らしさ」を大切に、パーソンセンタードケアを提供している。家庭的な環境の中で、利用者のこれまでの人生をよく知り、グループのもつ力を活用することにより、残された能力や可能性を最大限に引き出すケアを行っている。また、デイサービス、ショートステイ、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所を併設し、住み慣れた地域で継続的にケアを受けることができる、小規模多機能ホームであることも大きな特徴である。地域に開かれたコミュニティカフェ「Cafe Olympia」を併設し内だけではなく外への出店も行っている。地域住民とともに Salon de l'Olympia(コンサート・落語会等)や「オリンピア福祉塾講座」を開催するなど、地域との協働も多い。さらに、スウェーデンをはじめとする国内外からの見学・実習の受け入れや、大阪大学大学院などの研究機関と共同研究を実施するなど、認知症ケアの発展にも力を注いでいる。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「理念」「3つの約束」の共有に注力し、「今まで通りに誇りを持った暮らしを安心して続ける」パーソンセンターケアに取り組んでいる。木材を多く取り入れた設計で、懐かしい家具を適所に配置し、季節感・生活感が感じられる環境である。手作りの献立・調理を継続し、利用者も作業に参加できるように支援している。日常的な外出、季節の外出、遠出の外出等、外出の機会作りを積極的に行い、事業所内の行事や施設合同の行事もある。家事・外出・行事などに参加し、重度化しても、利用者個々の状態に応じて楽しく活動的に生活できるように支援している。家族の面会も多く、家族会・行事・外出への参加もあり、協力を得ている。複合施設の利点を活かし、様々な地域交流・地域貢献を継続し、館長を中心に地域福祉の拠点としての役割を担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オリンピア兵庫の理念、そして理念の実践のための3つの約束を作成している。この理念を毎日の朝礼で皆で読むことで確認し、内部研修等を通じ、全スタッフで共有と理解をさせて実践をしている。また、新しいスタッフには必ず理念を確認する事をスタートとしている。	「オリンピア兵庫の理念」、理念を実践するための具体的な「3つの約束」を、ユニット内に掲示し、職員・利用者・家族と共有を図っている。毎日の朝礼時に唱和し、浸透と意識付けに努めている。法人の新入職者の合宿研修・年度初めの理事長研修で、理念の理解について特に注力して研修している。また、各ユニットで理念にもとづく年間ビジョン・月間ビジョンを作成し、毎月のカンファレンス・リーダー会議で、ビジョンの実践状況や利用者への支援内容を振り返り、理念の実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年も地域の行事に参加したり、祭りに出店したりと継続的な繋がりを持っている。2019年も日常的な買い物等の外出は勿論のこと、夜caféやサロンドルオリンピア、お餅つきクリスマスイベントに多く来て頂けたりと関わりを持っている。	買い物などで、利用者が日常的に地域に外出している。傾聴・演奏等のボランティアや、保育園児の来訪により、利用者との交流を継続している。地域行事への参加、地域のふれあい祭りへの出店と参加、施設イベントとして夜カフェ・サロンドルオリンピアコンサート開催等の地域交流も継続している。館長の市の認知症介護サービス研修講師受託、福祉塾講座の開催、市の新任職員研修・トライやるウイーク・家裁更生プログラム・実習生受入れ等、地域で必要とされる役割や活動を担っている。地域ケアネット会議に参加し、地域の課題解決に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年も福祉塾講座等の勉強会を開催したり、地域の認知症に関する相談に乗るなど、現場での経験を共有している。また、引き続き館長が神戸市認知症介護サービス研修の講師を務めたり、地域のコミュニティに参加している。地域での講演活動も積極的に行っている。		

グループホームオリンピア兵庫

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、運営推進会議では毎回ご利用者も多く参加し、「月刊オリンピア」という冊子を作成し各ユニットの日々の生活や行事の様子を紹介、報告し、質向上のための話し合いをしている。出された意見はユニットで共有し、サービス向上に取り組んでいる。	利用者・家族代表、あんしんすこやかセンター職員、地域代表、知見者等をメンバーとし、2ヶ月に1回開催している。利用者は複数名が参加し、多くの家族に参加を呼び掛けている。会議では、「月刊オリンピア兵庫」を配布し、各リーダーがユニットでの生活の様子や行事等について報告し、意見交換を行っている。参加者から地域の高齢者の動向や行事等について情報提供を受け、サービスの向上に活かしている。議事録はホームページを適時更新し公開している。会議の様子を「月刊オリンピア兵庫」にも掲載している。	
5	(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	館長が市の研修で講師を務めたり、市担当者からの依頼で国内外からの見学・実習を受け入れたりしていることで、市担当者とは日常的に情報交換を行い、協力関係を築いている。	運営推進会議にあんしんすこやかセンター職員が参加し、会議を通じて事業所の取り組みを伝え、連携している。館長の神戸市認知症介護サービス研修の講師受託、市の新任職員研修の受け入れ、国外からの見学依頼に対応し、市と協力関係を築いている。市の研修・集団指導等に参加し、法令順守に取り組んでいる。グループホーム連絡会では、地域包括支援センターと連携を図り、課題等を共有しネットワーク化に取り組んでいる。	
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	オリンピア兵庫では施設内の日中の施錠を行わないことは当然のこととし、ご利用者の行動を制限したり、言葉による拘束をすることがないようにも注意、意識し取り組んでいる。定期的な研修を行うことで全スタッフが正しい理解の元、実践に取り組んでいます。	法人として、行動を制限しない自由な生活を根本的な方針とし、身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束適正化のための指針」を整備し、3ヶ月に1回「身体拘束防止委員会」を開催し、委員会の議事録を回覧し職員に周知を図っている。法人の全体研修で「身体拘束廃止」の研修を実施し、カンファレンスでの伝達、議事録と資料の閲覧で周知を図っている。玄関ドアの施錠は行わず、ユニット間の行き来も自由にでき、閉塞感のない自由な暮らしを支援している。	研修実施記録の要件(日時・参加者研修名・資料添付等)、参加できなかった職員への周知の記録を、明確にすることが望まれます。

グループホームオリンピア兵庫

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフには年2回の研修を行い、正しい理解を得ている。管理者は内部だけでなく、外部の研修にも参加する事で、正しい理解に努めている。法人の理念でもある“敬語”を基本とし、言葉使いの一つからでも虐待、不適切なケアに繋がることのないよう注意し、気になった際はスタッフ同士でも指摘をしまい、話あうようにしている。	年2回、法人の全体研修と事業所のDVD研修で、虐待防止について研修を実施している。「理念」「3つの約束」を共有し、不適切な言葉かけや対応に繋がることのないよう取り組んでいる。日頃から相談しやすい環境づくりに努め、ストレスチェック・個別面談の実施、また、新入職員に施設内で介護技術を学ぶ機会を設け個別のスキル評価を行う等、職員の悩みやストレスがケアに影響しないように取り組んでいる。入浴時等には「外傷チェック表」で身体状況を観察し、虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用について研修を行い、職員が知識を深める場を設けている。内外部の研修を活用し広くスタッフに理解の場を持たせられるようにしている。また、必要と思われる利用者については、関係機関への橋渡しを早急に行っている。	外部研修受講や、全体研修の中で司法書士が「法令順守」研修の中で説明する等、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設けている。現在、成年後見制度を活用している利用者があり、後見人への身体状況の報告や書類送付等、活用のための支援を行っており、職員が実務を通じて学ぶ機会もある。今後、制度利用が必要と思われる利用者には、管理者が窓口となり関係機関と連携しながら支援する仕組みがある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、の際は十分に理解してもらえるように説明を行っている。改訂の際には変更内容をお一人おひとりに説明を実施し、同意の上署名、捺印を頂いている。疑問点に関しては速やかに解決できるよう、対応している。	入居希望者には、見学・申し込み・面談の段階に応じて、法人・事業所パンフレットを用いて事前説明を行っている。契約時には、管理者が契約書・重要事項説明書・各種指針や同意書等に沿って説明し、文書で同意を得ている。特に、緊急時・重度化への対応、加算・実費等の料金関係について、詳細に説明している。改定時は、面談での個別説明や電話での説明の上、基本的に新旧比較書面を作成して同意を得ている。契約終了時には、契約書の条項に沿って情報提供等を行い、円滑な移行に向け支援している。	

グループホームオリンピア兵庫

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度開催の運営推進会議、年に一度のご家族懇談会などの接点をおおく作る事で、報告の場を作り、意見・要望を聞く機会に繋げている。またご利用者との外出企画にご家族もお誘いしたり、食事会等の行事へのお誘いもしている。出された意見・要望は職員で共有し、速やかに運営に反映させるよう取り組んでいる。	家族の面会が多く、面会時には近況を報告し、また、「月間オリンピア兵庫」を毎月郵送し、写真を多数掲載して生活や行事の様子を伝え、家族が意見や要望を表しやすいよう取り組んでいる。年1回家族懇談会を開催し、誕生日会・クリスマス会・食事外出等、事業所の行事に家族の参加を案内し、意見・要望を把握と話しやすい関係づくりに努めている。運営推進会議には複数名の利用者・家族の参加があり、意見・要望を外部者に表せる機会となっている。環境整備等、把握した意見・要望等は、職員間で共有し反映できるように取り組んでいる。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も現場での時間を共有する時間を作っている。食事の時間や外出の時間を共にし、スタッフに声をかけるようにしている。食事会を催すなど、日常的に職員が意見や提案をしやすい関係性を築いている。また、館長、管理者と個々での面談の機会や年度末には一年の振り返りを個々のスタッフとおこなっている。また、上司スタッフの意見に耳を傾け、反映し形として返せるようにしている。	月に1回各ユニットでカンファレンスを行い、利用者のケアや業務について、職員が意見・提案を出し合って検討している。担当職員が事前に作成したカンファレンスシートを配布し、利用者の情報共有・前月の対応状況の確認を行っている。ユニットリーダーが職員の意見・提案等を集約し、月1回のリーダー会議で、管理者・ユニットリーダー間で共有している。日頃から、話しやすい関係づくりに努め、管理者・ユニットリーダーが個別に職員の意見を聴く機会を設けている。人事考課制度の個人面談で、ユニットリーダー・管理者・館長と意見交換する機会もある。管理者は、法人主任会議に参加し、職員の意見等を代表者に伝える仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりひとりが毎年目標を設定し、それに対する自己評価および上司による評価を実施することによって、向上心をもって働ける環境を整備している。		

グループホームオリンピア兵庫

自己 者 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	法人の事業目標として「質の高い人材の育 成」をかせ、職員ひとりひとりにいま必要 とされる技能や知識を把握に努め、それぞ れの段階に応じた研修やトレーニングの機 会を積極的に提供している。2019年度は他 の会社との協力にて人材育成の効果的な 方法などの研究も進めている。また年1回 のスウェーデン研修も継続し実施している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	同区内での連絡会やケアネットへの参加な ど、法人内外の施設や同業者との交流を通 じ、サービスの質を向上させるように取り組 んでいる。また、他施設からの見学・実習の 受け入れも積極的に行う他、パブリシティや シンポジウム等を通しての情報発信、オリ ンピアが主体となつての同業種間の交流イ ベントの開催を行った。また、SNSなどで の発信も積極的に行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	パーソンセンタードケアに基づき、ご本人の 思いや不安、要望に耳を傾け、ご本人が望 まれる環境を作れるように努めています。ま た、個別に日々のご本人の行動、言葉を詳 細に記録し、ケアに繁栄しています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	入居までに、管理者およびユニットリーダー が、利用者本人や家族と面談をしたり、ホ ームを訪問してもらつた機会をつくつたりし、信頼 関係を構築し、不安や疑問を取り去つた上 でサービスの導入を行うようにしている。		

グループホームオリンピア兵庫

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で面談の機会をもうけご家族と、ご本人がその時置かれている状況の把握に努めている。直接的な要望だけでなく、会話の中から隠れた希望や読み取るようにし、その時必要とされている支援を行うようにしている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「お手伝い」をさせて頂くというオリンピアの理念のもと、職員は入居者様に対し、介護する側、される側ではなく、共に生活をする上で個々を尊重させて頂いています。その中で、正しい敬語を使うことで、相手を敬う気持ちを持って接している。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会などの来所時はもちろんのこと、細かな報告を定期的に行い、関係作りに努めている。一つ一つのケアを相談させて頂く事で、一方の立場だけでなく、共にご本人を支えている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の生活歴を守る為にも、以前からの関係を大切に支援している。知人との関係、馴染みの病院や、お店、お好きな場所にいつでもいけることが出来、関係の途切れることのないように支援している。グループホームに入ってもこれまでの延長として生活を送って頂ける様取り組んでいる。	馴染みの人や場所についての情報は、入居時の「生活歴シート」や「個人ノート」、入居後は日々の会話等の中で把握に努めている。家族の他にも、友人・知人の来訪があり、フロアや居室などでゆっくり過ごせるように配慮している。馴染みの喫茶店・病院・美容院等の利用が継続できるように支援している。年賀状等手紙のやり取りのサポートや、施設内のデイサービスやショートステイの利用者との交流を通して、馴染みの関係継続を支援している。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々ご利用者同士の関係性の把握に努めています。日常的に協同作業や、外出を多く支援し、利用者様同士の関係が広がるようお願いをさせて頂いている。		

グループホームオリンピア兵庫

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了の理由にはありますが、自宅に戻るため、あるいは長期入院のために退居した利用者とも必要に応じて連絡を取り、必要な支援を継続している。またそのご家族ともイベント等を通じて積極的な交流を継続し関係を守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者が入居前面接時にご家族、身近の方からのお話を伺い、初期面接、入居後の日常生活から入居者様一人一人の生活の楽しみや、趣味等の把握に努めている。何気ない会話からの希望や要望を大切に、その方にあった生活を送って頂いております。生活の中でも選択のある生活をして頂いており、意思表示の困難な方でも、ご家族の協力を仰ぎ、個別理解に努めている。	入居時は、「生活歴シート」や「個人ノート」の中で、利用者の思いや意向の把握に努めている。入居後、日々の生活の何気ない会話の中で把握した思いや意向は、介護記録やカンファレンスシートに記録し共有を図っている。意思表示が困難な利用者については、特に表情や反応の観察に努めたり、答えやすい質問方法で尋ねる等、コミュニケーション方法を工夫し把握に努めている。また、家族からの情報や、以前の記録なども参考にしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族の協力によって、ひとりひとりの個人史を把握しているほか、服装やこれまでの生活環境についても、本人や家族から詳細な情報を得るように努めている。また、得られた情報は日々のケアに生かすようにしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりのご利用者との関わりを、日々大切にし、偏見や思い込みにとらわれることなく、しっかりと接点を持つことで、心身状態の変化や、“今できること”の把握に努めている。		

グループホームオリンピア兵庫

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者本人の希望や目標を第一に、ご家族の希望や職員の気づきを介護計画に積極的に反映させている。また、ご本人、ご家族、職員、かかりつけ医と相談のもと、プランを作成している。毎月、ユニットカンファレンスを開催し、モニタリングを実施し、現状に即した介護計画を作成をしている。	「生活歴シート」「個人ノート」等を基に初回の介護計画を策定し、以降は基本的には3ヶ月毎に見直しを行っている。介護計画書・アセスメントシートのファイルを各ユニットに設置し、職員に計画内容の周知を図っている。援助内容を具体的に立案し、実施状況をアイパッドの介護日誌に入力している。毎月、各担当職員が、1カ月の実施状況と課題を「カンファレンスシート」に記載し、ユニットカンファレンスで情報共有・意見交換している。3ヶ月毎に、そのシートを基にモニタリング・評価を行い、サービス計画書評価欄に記載して、介護計画の見直しを行っている。かかりつけ医や看護師等の意見も、必要に応じてシートに記載することとしている。見直し時には、再アセスメントを行っている。	「生活歴シート」を活用する等、利用者の全体像が把握でき、また、新たに把握した情報を追記できる書式の工夫が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の発される言葉を中心とし、一日一日の様子が分かるよう、またスプフの働きかけ(ケア)や行動を個々の記録に残し、共有している。気づきや、発見、変更点をユニットカンファレンスに落とし込み、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画や日常の決まったケアだけを提供するのではなく、利用者ひとりひとりの状況やニーズに応じた、柔軟なサービス提供に取り組んでいる。また、オリンピア兵庫として、デイサービス・ショートステイ・ホームヘルプとを組み合わせ、小規模多機能ケアに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	継続的に商店街や老人会等と協力している。新しく、地域の婦人会との繋がりも出来た。地域資源を把握するとともに、日常的に出かけたり、イベントに参加をすることで積極的な関わりを持ち、利用者ひとりひとりにとって安全で気楽な暮らしをして頂けている。		

グループホームオリンピア兵庫

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)		<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>グループホームとして3名の医師がかかりつけ医としている。ご本人、ご家族と相談のもと、納得した形で医師を選択頂いている。その方にもとものかかりつけの病院があり、馴染みの病院の継続を希望の際は、その病院との関係を継続して頂ける様支援させて頂いている。かかりつけ医の定期的な往診により、健康状態の把握をしている。また、普段よりご家族、ご本人の医療面での相談も受けて頂く体制を整えている。</p>	<p>入居時に確認し、利用者・家族の希望に沿った受診支援を行っている。ホームには、3名の医師がかかりつけ医として往診し、希望するかかりつけ医での受診を支援している。入居前のかかりつけ医を継続している利用者もいる。往診医師への事業所からの情報提供・医師の指示等は「往診ノート」で共有を図っている。他科通院は、歯科通院を含め基本的には事業所が支援し、受診結果は「通院記録」に記録して共有を図っている。施設の看護師が健康管理を支援している。</p>	
31			<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常的な小さな事から看護師とは相談の上、情報の共有を徹底している。些細な事から指示を仰ぎ、看護師からも日々アドバイスを頂いている。ご利用者の変化への早期対応、看取りや入院者の早期退院の受け入れに繋がっている。</p>	/	/
32	(15)		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>ご利用者の入院時には担当医師、地域医療連携室との連絡をこまめにとることで早期退院に繋げている。入院時には面会に頻繁に伺い、こまめな状態把握をし、早期の退院に繋がる様にしている。また、病院と家族とのカンファレンスにも出させて頂く事で関係づくりに努めている。入院時以外の時間でも病院との関わりの時間を持つことで協力しやすい関係も築けている。</p>	<p>入院時はサマリー等で、必要な情報を提供している。入院中は家族とも連携を取りながら面会に行き、病院関係者と情報交換を行い、早期退院に向け支援している。必要に応じて、洗濯物の交換も支援している。退院前に開催があればカンファレンスに参加し、ユニットの職員間で情報共有している。退院時には看護サマリーの提供を受け退院後の介護計画の見直しや支援に反映させている。</p>	

グループホームオリンピア兵庫

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針を作成し、ご利用者入居時にご本人、ご家族に重度化に関する説明を行い確認し、ご署名を頂いている。ご本人のご様子の変化に応じて段階的に確認を取り、随時、医師、ご本人、ご家族、管理者、スタッフでのカンファレンスの場を設け、チームとして支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針を、「重度化した場合における対応に係る指針」に明文化し、契約時に説明し同意を得ている。主治医が終末期と判断した段階で、家族等を交えてカンファレンスを開催し、家族の意向を確認し、意向に沿った支援を行っている。事業所での看取りを希望された場合は、看取りの介護計画を作成し、家族の意向を随時確認しながら、主治医・看護師など関係者等と共に支援に取り組んでいる。事例があれば、個別の事例をもとにターミナルケア研修を行っている。看取り後は、振り返りカンファレンスを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事態に対応できるように、内部研修を定期的に行っている。また、利用者への個々の対応に関しては、普段よりユニット事で想定される事態をシミュレーションしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	設備会社や、電気会社との協力にも年に2回、昼間想定・夜間想定消防避難訓練を実施している。また、地域の消防署・交番等とも日常的に情報交換を行い、緊急時への備えを行っている。	毎年、年に2回、施設合同で、昼間・夜間想定総合訓練を実施している。訓練前に訓練シナリオ・行動表を作成し、実施後には、防災委託業者を交えて振り返りを行い、「実施後の記録」を作成している。行動表を、ユニットに配布し訓練内容を職員に周知している。今年度は9月に昼間想定訓練を実施し、2月に夜間想定訓練を予定している。運営推進会議を通じて地域へ協力を呼び掛け、地域との連携・協力体制を築いている。水・食料やカセットコンロ等備蓄品を施設で共同備蓄し、施設の管理栄養士が管理している。	「実施後の記録」に参加者・日時等も記載し、ユニット内で供覧する等、参加できなかった職員にも周知することが望まれます。

グループホームオリンピア兵庫

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼や研修で「オリンピア兵庫の理念」「オリンピア兵庫の3つの約束」とその意味を確認し、敬語を意識してご利用者とお話できるよう指導し、ご利用者に敬意を持って日々のケアを行っている。また、スタッフの意見を優先させることなく、パーソンセンタードケアを取り入れたケアを行っている。	全体研修で、「個人情報とプライバシー」研修を実施している。利用者尊重については、各種法人内研修や、事業所内での「オリンピア兵庫の理念」「3つの約束」の毎朝の唱和・カンファレンス等で、繰り返し周知を図り、意識向上に努めている。個人記録は、ワーカールームの鍵付き書庫に保管し、写真使用についてホームページ・館内掲示・月間オリンピア等に分類して、個人情報使用同意書で同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的にスタッフからご利用者への声かけは選択肢のある問かけを行い自己決定を促させて頂いている。また、ケアプラン更新の際、ご利用者の思いをお尋ねし、希望を叶える為に企画を立て実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の基盤はある中に、「生活の主人公は利用者ご本人です」というオリンピア兵庫の理念のもと、毎日のご利用者の体調や様子を見て、ご利用者の過ごしたいようにすごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品などが好きな方に継続した機会を持って頂くことは勿論、行きつけの美容院や馴染みの場所へ行って頂ける様にしている。ご自身で出来なくなった方に対しても、外出時等に服と一緒に選んだり、髪を整えたりとさせていただいている。		

グループホームオリンピア兵庫

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備からご一緒にして頂くことで、“食べる”事だけでなく会話も楽しみながら食事までの課程も大切にしている。メニューも個々に合った形態を考慮し、季節の食材を取り入れ、皆様の希望も伺うことでメニューに反映させている。	季節感・行事食・利用者の希望等を考慮して職員が献立を作成し、施設の管理栄養士が栄養バランス等を確認している。利用者個々の食事形態や好き嫌いにも、個別に対応している。野菜の処理・カット、調理、盛り付け、後片付け等に、好みや力量に合わせて参加できるように支援している。職員も食卓を囲み、個別の好みの箸やお茶碗を使用し、家庭的な雰囲気づくりに努めている。少人数や個別で外食に出かけたり、また、事業所内の行事や外食行事で家族と共に食事を楽しむ等の機会も設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のチェックを行い、量に注意している。水分は季節に合わせた水分量を考え、こまめに水分を摂取させていただき記録に残している。食事量が少ない方には必要に応じ医師と相談し、カロリー摂取できる栄養補助食品を取り入れる等、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お一人お一人の口腔状態に合わせた口腔ケアを行っていただける様にしている。自身のできる箇所は行って頂いている。定期的に歯科受診をしており、歯科医のアドバイスを参考にしている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりに合った排泄をして頂ける様に排泄パターンなども確認している。自立に向けた排泄を促し、変更一つでも本人、スタッフ同士、ご家族との確認のもと行っている。また、一度オムツなどに変わった方々に対しても自立に目標立て、向上に努めている。	排泄チェック表で、排泄状況や排泄パターンを把握している。排泄について自立している利用者は自立が継続できるように、また、必要に応じて声かけ・誘導を行い、立位可能な利用者にはトイレでの排泄が継続できるように支援している。カンファレンスで、利用者個々の現状を共有し、現状に即した介助方法や排泄用品を検討している。変更時には、家族の納得と了解を得ている。誘導時の声かけや見守りの位置に配慮する等、羞恥心やプライバシーへの配慮に努めている。	

グループホームオリンピア兵庫

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お腹に良い食べ物や飲み物の工夫、またその量にも気を配り働きかけている、必要な方にはプランに落とし込み運動の機会も作らせて頂いている。医師、看護師の判断で下剤や、浣腸もおこなっている。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者のその日の体調や気分配慮し、週に2.3回は入浴して頂いています。毎日入浴される方もおり、その方のご希望の時間に入っただけの様、朝、昼、夕関係なくいつでも入れる様、対応している。また、入浴形態も、個々に合わせ、機械浴の使用も、対応している。	週2～3回の入浴を基本とし、「入浴チェック表」で入浴状況を確認しながら、回数・時間帯は利用者個々の希望や生活習慣に沿って入浴できるよう支援している。身体状況によっては、デイサービスの機械浴の利用も可能である。同性介助の希望に対応したり、声かけやタイミングに工夫する等、拒否なく入浴できるよう支援している。職員と近くの銭湯に出かけることもある。好みのシャンプーや入浴剤の使用、ゆず湯の機会を設ける等、入浴が楽しめるよう支援している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯や睡眠時間の決まりをこちらで設定する事無く、おひとりおひとりの生活にあった睡眠ペースで休んで頂いております。居室の照明や環境などにも注意し、安心して休んで頂ける様配慮している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員ひとりひとりが確実に薬の目的や用法を理解し、適切な服薬の援助ができるように、看護師と情報の共有を行っている。特に、新しい薬が処方されたり、薬が変更された場合、確実に申し送りを行い、誤薬等の事故の防止に努めている。		

グループホームオリンピア兵庫

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ひとりひとりに合った役割をもって日々の生活を送ることができるように、個人史等も活用しながら、支援を行っている。また、日課や趣味をこれまで通りに楽しむお手伝いをするほか、外出も積極的に行い、刺激のある日常を送って頂ける様心がけている。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出が特別な事で無く、自然なこととしてまんべんなく、皆様に出かけて頂いている。近隣の散歩等の外出から旅行まで、ご本人の希望、要望を大切に行って頂いている。費用のかかる事も様々な協力のもと、相談し実行に移している。2019年も京都や大阪、淡路島などご本人本位の外出を多く行った。	買い物や散歩など近隣への外出は日常なこととし、地域のイベントにも参加してる。初詣・花見・紅葉・菊花展など季節に応じた外出や、京都・大阪・淡路島など遠出の外出も行っている。施設の車いす対応車を使用したり、電車を利用する等、利用者の希望に沿って機会均等に外出できるように工夫し、家族の協力を得ながら外出支援に積極的に取り組んでいる。沖縄旅行に参加する法人の企画もある。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に合わせ、所持の方法を決めて頂き管理をしている。現在は多くの方が自身での管理をされない形を希望されているものの、買い物時に自身で支払って頂いたり、お金をお渡しし、安心感をもって買い物を楽しんで頂ける様支援させて頂いている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親交のある方々への繋がりを継続して頂くためにも、電話や手紙のやりとりは自由に行って頂いています。年賀状のやりとりも継続されている。		

グループホームオリンピア兵庫

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オリンピア兵庫では設計段階から、木材を多く取り入れたりと心身両面でご利用者の暮らしやすさを考えた設計をしている。リビング内にも数カ所にテーブルやソファを置かせて頂き、その時々で気分でご過ごす場所を変えて頂ける様にしている。また、季節によってリビングの飾り付けを変えたり、ご利用者の手作りの物を置かせて頂いている。オリンピア兵庫では設計段階から、ご利用者の暮らしやすさを考えた設計をしている。	木材を多く取り入れた造りで、ユニット間が廊下でつながり、利用者が自由に交流でき、開放感のある環境である。ひな壇・メダカの水槽・書道作品・行事の写真・利用者の作品等を飾り、また、季節ごとにベランダの花を植え替え、季節感や生活感を採り入れている。適所に、懐かしい家具やテーブル・一人用ソファを設置し、また、畳のスペースもあり、一人でくつろいだり、少人数で過ごす等、居心地よく過ごせるよう配慮している。トイレ・浴室は、わかりやすいマークを施し、場所間違い防止を工夫している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	そのときどきの人間関係や気分も考慮して、たくさんの居場所を提供している。また、食卓とくつろぐ場所を分けることで安心して過ごすことのできる居場所づくりに取り組んでいる。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人がこれまで使い慣れた家具、馴染みの品思い出の写真、ご本人のセンスにあった居室づくりを、ご本人と一緒にしている。家族からも伺い、これまでの生活環境を把握し、ご本人の落ちつける空間を目指している。	各居室にベッド・クローゼット・洗面台の備え付けがあり、ゆったりと広く、自然光ライトの配慮もある。冷蔵庫・タンス・テーブルセット・趣味の作品等、使い慣れた馴染みのものや、好みのものが持ち込まれ、その人らしく落ち着いて過ごせる環境になっている。家具の配置や動線を考慮したり、希望に応じて物干し竿を設置する等、安全に自立支援できるように配慮している。居室担当職員を設け、家族と連携して衣替えや環境整備を支援している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の「自立」のサポートの考えを基本に、環境作りを考えている。皆様の状態の変化に応じた模様替え、安全なスペースの確保、更に自身での行動を促すような配置などを考えている。		